

コミュニティ・スクールを核とした

周南市の「地域と“共に”ある学校」 通信

共に。
周南市

平29年度 第22号

平成29年12月4日発行

周南市教育委員会

学校教育課

地域と共にある9年間の学びカリキュラム

各中学校区で、9年間の学びのカリキュラムを作成していただきました。現在、各学校や合同の学校運営協議会での地域への公開を進めています。

地域と共にある学校づくりを進める中で、児童生徒が地域を学び、地域で学ぶ機会は多く、地域の支援によって学習が進む機会も増えてきました。

市として、学校支援や地域貢献が学校と地域とのWINWINの関係をつくる方向を目指しています。

地域と”共に”ある9年間の学びカリキュラムの担い手としての意識の高揚を図るための学びの見取り図

4年生	5年生	6年生	中1年生	中2年生
地域の歴史や文化を学ぶ	地域の歴史や文化を学ぶ	地域の歴史や文化を学ぶ	地域の歴史や文化を学ぶ	地域の歴史や文化を学ぶ
地域の産業や職業を学ぶ	地域の産業や職業を学ぶ	地域の産業や職業を学ぶ	地域の産業や職業を学ぶ	地域の産業や職業を学ぶ
地域の自然環境を学ぶ	地域の自然環境を学ぶ	地域の自然環境を学ぶ	地域の自然環境を学ぶ	地域の自然環境を学ぶ
地域の伝統文化を学ぶ	地域の伝統文化を学ぶ	地域の伝統文化を学ぶ	地域の伝統文化を学ぶ	地域の伝統文化を学ぶ
地域の歴史や文化を学ぶ	地域の歴史や文化を学ぶ	地域の歴史や文化を学ぶ	地域の歴史や文化を学ぶ	地域の歴史や文化を学ぶ
地域の産業や職業を学ぶ	地域の産業や職業を学ぶ	地域の産業や職業を学ぶ	地域の産業や職業を学ぶ	地域の産業や職業を学ぶ
地域の自然環境を学ぶ	地域の自然環境を学ぶ	地域の自然環境を学ぶ	地域の自然環境を学ぶ	地域の自然環境を学ぶ
地域の伝統文化を学ぶ	地域の伝統文化を学ぶ	地域の伝統文化を学ぶ	地域の伝統文化を学ぶ	地域の伝統文化を学ぶ

この度の「9年間の学びカリキュラム」の作成は、学校教育全体を見直し、一つ

の中学校区でどのような連携・協働が進んでいるのかを把握する上で必要であると考えとともに、以下のような意味を考えています。

- 1 地域の方がどのような活動でつながっているかについての把握と支援者の教育活動参加の自覚を得ること。
- 2 保護者への周知と理解の促進を図ること。
- 3 教職員の小学校と中学校のつながりの把握により、活動の重複の解消及び目標の達成のための一貫性確保に役立てること。

新学習指導要領の「社会に開かれた教育課程」の考え方やカリキュラム・マネジメントとの関連を考え、各教科・領域の今後のカリキュラムづくりに地域との協働部分を示す「見取り図」となること。

以上、教職員一人一人にとってCSの生かし方、関わり方を考える材料として、また、中学校区の「地域と共にある学校づくり」の方向性を示すものとして学校・家庭・地域が共有し、統括（地域）コーディネーターを主体とした連携マネジメントによって全体の運営がスムーズに進むことを期待しています。

地域と”共に”にある学校 百景



久米小学校では、地域住民や周南総合支援学校、徳山高専、徳山大学からの作品や久米小の子ども達の作品を校内に展示しています。なかでも、全国高等専門学校ロボットコンテストに参加した作品は参観者の目を惹きます。



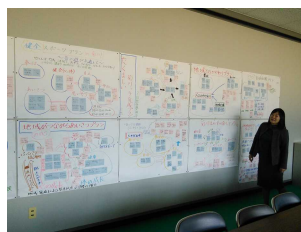
鹿野小学校には、コミュニティ・スクールの仕組みの図に合わせて、自校区の取組をわかりやすく示した掲示があります。



和田中学校生徒が小学校児童に英語のアルファベットや世界の国旗を楽しく教える等の交流活動を行っています。



岐陽中学校の授業を徳山小6年生が参観。「授業は難しかったが、分かったこともあり嬉しかった」と話しました。



菊川中学校のCSルームには、8月の合同学校運営協議会での熟議の内容を掲示し、次の協議の進行に生かしています。



岐陽中学校区では、合同学校運営協議会をとおして、地域教育のネットワークの名を「とくやまトキメキネット」とし、地域の拠点に旗と横断幕を掲示しました。今後、中学校美術部生徒が、さらに大きな横断幕を作成する計画です。